

**\* 60m 鉄塔検証—その 12、60m 鉄塔 4 本が記載された図面発見—**

大正 12 年に建設され、昭和 18 年 8 月に調布飛行場を飛び立った陸軍の戦闘機がアンテナ線に引っかかり墜落炎上するという事故があり、昭和 20 年 4 月に陸軍の手によって倒された報時信号受信用の 60m 鉄塔アンテナについて検証を続けている。検証記事がすでに 12 回に及ぶが、今回は 2009 年 7 月 22 日の皆既日食の際、パシフィック・ヴィーナス号に乗り合わせ面識を得た渋谷星の会の小川誠治氏から提供された資料と国立天文台図書室の広瀬秀雄文庫から発見した資料である。まずは、図 1 がアーカイブ室新聞 182 号に筆者が 4 本目の鉄塔位置を入れた図である。赤い×印のところにあったはずだと書いた。

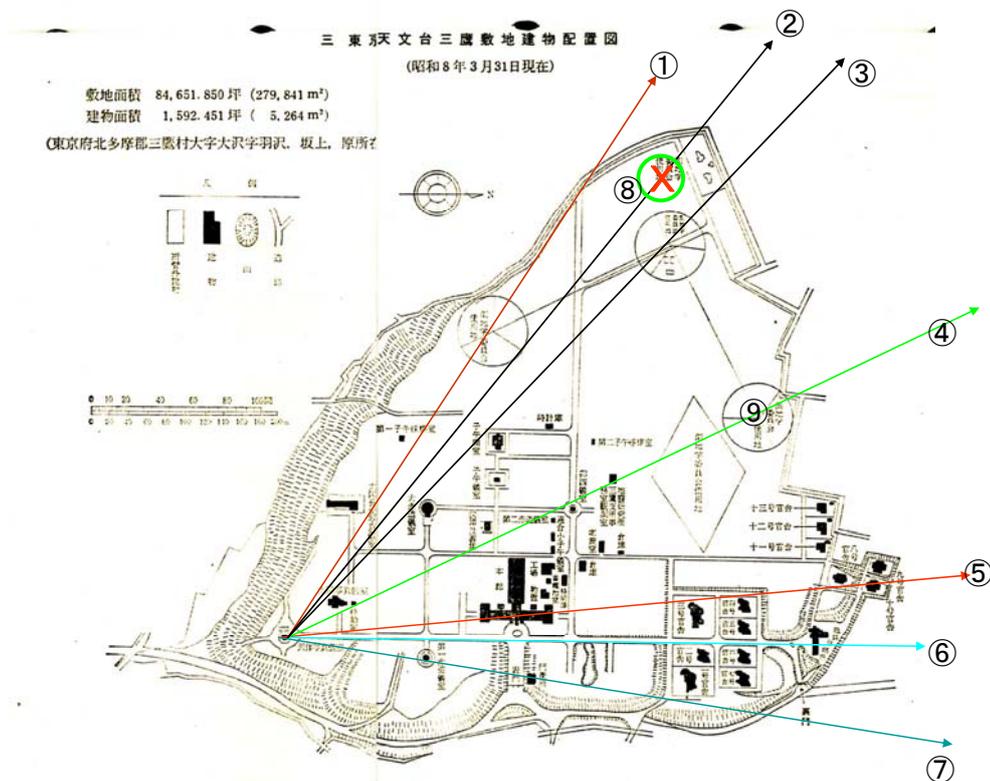


図 1 アーカイブ室新聞 182 号の 4 本目鉄塔位置推測図面

小川誠治氏から送られてきた図面が図 2 である。これには 4 本の 60m 鉄塔の位置がはっきりと書かれている。国立天文台に残っていた資料を漁ったがこの図は今まで発見できなかったものである。図 2 には、この 60m 鉄塔アンテナの名前もはいつているのである。そして直角に配置されたアンテナ鉄塔にはループアンテナ、4 本目の鉄塔アンテナにはペリニントンアンテナと書かれている。4 本の 60m 鉄塔が 1 組のアンテナとしての配置としては奇妙

な配置と思っていたが、これではっきりと別のアンテナであったことがわかった。

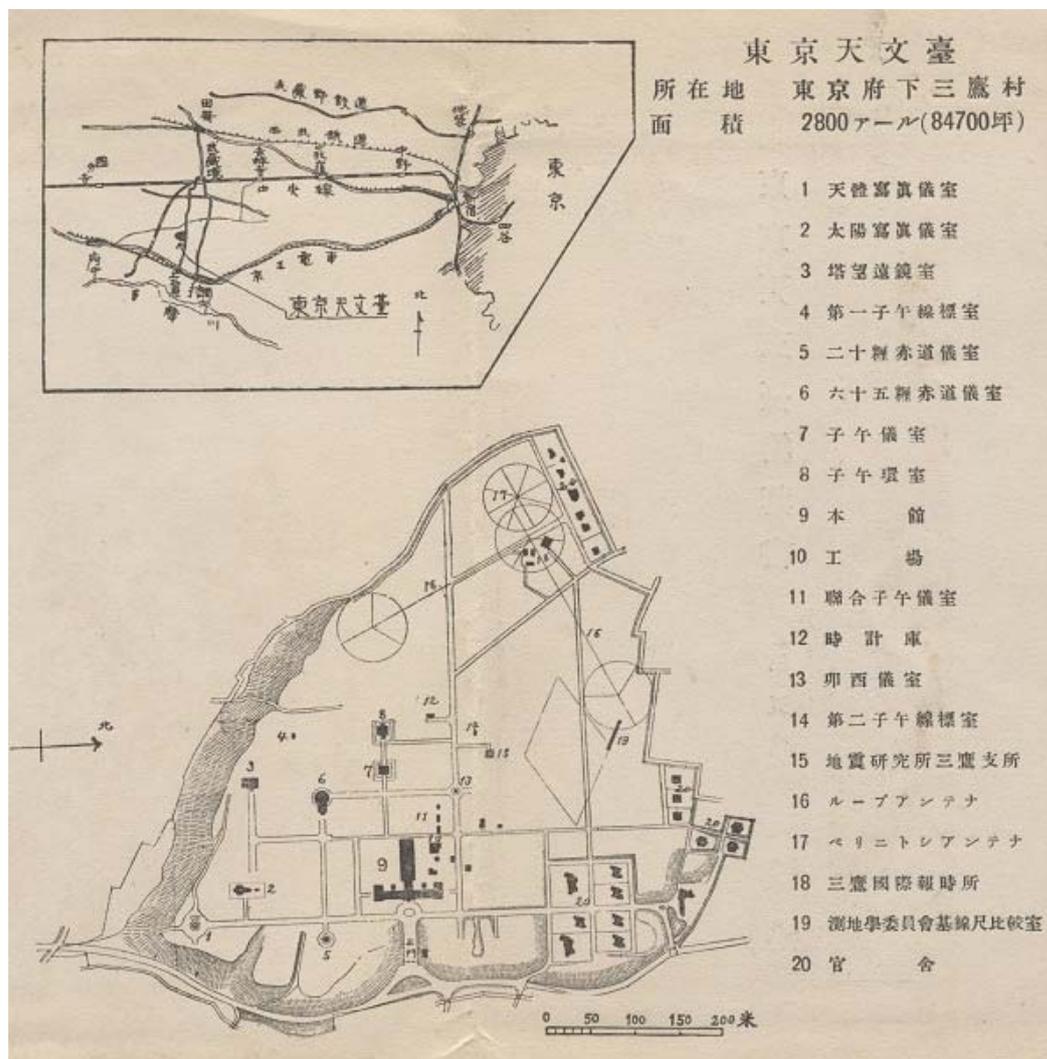


図2 渋谷星の会の小川誠治氏提供の配置図

小川氏は他にゴーチェ子午環室、三鷹国際報時所と共に3本の60m鉄塔が写った写真を送ってくださった。写真2の左に写っている3本の鉄塔の中央の鉄塔が4本目の鉄塔である。小川氏の話では、これらは戦前の絵葉書だそうである。写真1が、それら絵葉書が入っていた袋状のものに書かれた文字の写真である。「東京天文台絵葉書（第5集）」とあり、日本天文学会発行となっている。

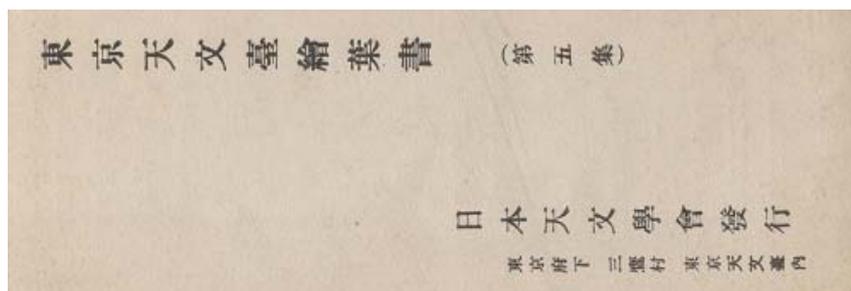


写真1 絵葉書が入っていた袋の印刷



写真2 ゴーチェ子午環室と3本の60m鉄塔が写った写真

写真3は、三鷹国際報時所の無線報時受信自記装置の写真である。この写真は小川氏提供のものであるが、国立天文台の広瀬文庫にも同じ絵葉書があった。

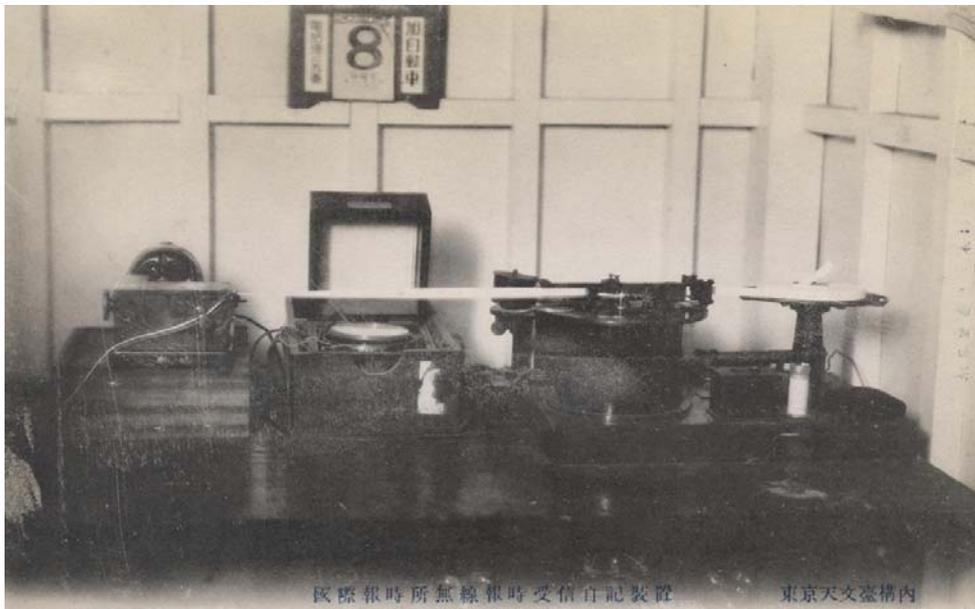


写真3 三鷹国際報時所無線報時受信自記装置の写真

国立天文台広瀬文庫にも残っていなかった貴重な写真、図が民間のアマチュア天文家の手に残っていて幸いであった。筆者はこの60m鉄塔の痕跡調査を続けているが、これで4本全ての位置情報と写真を入手したことになる。広瀬文庫にはゴーチェ子午環室の左に60m鉄塔が写った写真4があり、これにはゴーチェ子午環室の右に一等三角点上の櫓も写って

おり、アーカイブ室新聞 225 号の写真 1 の⑤が確かに櫓であったことが証明された。



写真 4 国立天文台図書室広瀬文庫にあった 60m 鉄塔が写った写真

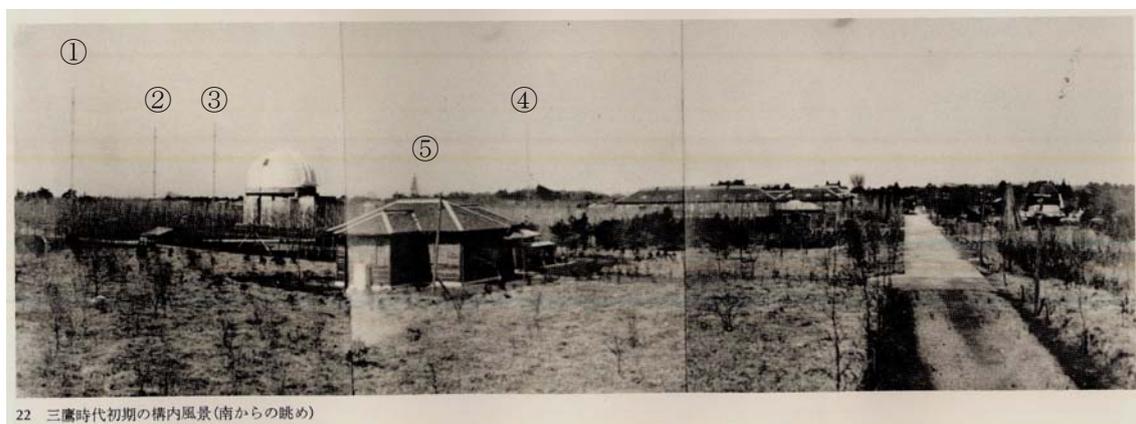


写真 1 三鷹時代初期の南から撮影した構内写真

このようにして情報が寄せられ、歴史を明らかにしていく作業が進む。嬉しい限りである。渋谷星の会の小川誠治氏に厚くお礼を申し上げます。